

河合貴則¹: 報告—第36回日本植生史学会談話会
Takanori Kawai¹: Report—The 36th forum of the Japanese Association of Historical Botany

第36回日本植生史学会談話会が2013年12月2日(月)に行われた。私は今回の学会も巡検も初めての参加で、高知県を訪れるのも今回が初めてである。今年の巡検は「室戸岬とその周辺の植生と植物」というテーマで、高知大学の三宅尚先生の案内で行われた。参加者は28名で、大会終了後の12月2日の早朝に、高知大学のバスではりまや橋を出発し、休憩と昼食をはさみながら金剛頂寺、室戸岬へと向かった。室戸岬周辺は四国の太平洋側で森林植生がもっとも良く保存されている地域の一つといわれている。森林型としては、照葉樹林の構成種のほか、亜熱帯性のアコウが優占する林分も発達している。

市街地を出発してまず一行が訪れたのは、室戸市にある金剛頂寺である。海岸に近いお寺の林には九州や近畿とは違った照葉樹林の植生が見られるという。足を踏みいれてみると、林内にはスタジイにイスノキをまじえた常緑樹林が広がっていた。低木層にはハイノキ科のミミズバイ、カンザブrouノキ、ヤブコウジ科のタイミンタチバナなど私にとってはなじみの薄い樹種が生育していた。さらに、高知県と徳島県で絶滅危惧種に指定されているヒロハ(ノ)ミミズバイ(別名オニクロキ)もみられた。ミミズバイの花期が7~8月なのに対して、ヒロハミミズバイの花期は11~12月とずいぶん遅く、今回の巡検でもその白い花房を見ることができた(図1)。林床にはシイ属の根に寄生するヤッコソウ(図2)と呼ばれる葉に葉緑体をもたない奇妙な形をした寄生植物がみられた。三宅先生によると、ヤッコソウは現在ラフレシア科に属し、北限は徳島県という。ヤッコソウには雄の花の時期と雌の花の時期がある。はじ

めは花糸と葯がくっ付いた全体が帽子状の雄しべであるが、やがて花粉が出なくなると、その帽子が抜け落ち、中から雌しべの柱頭が姿を現す。花には甘い蜜がたくさん出ていて、私もその蜜をなめるとほんのり甘い味がした。普段は京都の大学周辺の山にあるアラカシやツブラジイといった種が優占している照葉樹林ばかりを見ている私としては、同じ照葉樹林といえども、金剛頂寺にあったほとんどの植物が珍しいものばかりでとても刺激的であった。

一行が金剛頂寺を出た頃には時間もお昼時となり、海の駅「とろむ」で昼食をとった。事前に手配していただいたおかげで、到着して店に入るとすでに海鮮定食が並んでいた。実は金剛頂寺で足を滑らせ、膝から下を池に沈めてしまい落ち込んでいた私は、お刺身や鯨のから揚げで元気を回復し、バスに乗り込んだ。

バスに揺られて車窓から太平洋を望んでいるうちに、今回の巡検最後の目的地である室戸岬に到着した。岬とあってか、当然のごとく風が強かった。その風のせいもあって、海岸の林は背が低く低木林を形成していた。バスをおりてから、三宅先生の海浜植生の解説を伺いながら、ウバメガシとトベラの低木林を抜けていった。ここはジオパークに指定されており、随所に、地形や地質の解説がされていた。林床に目を落とすと、たくさんの黄色い花を咲かせたシオギク(図3)や傘ほどの大きな葉をもつクワズイモがみられた。三宅先生によると、このシオギクは全国で高知県東部と徳島県南部にだけ分布しているが、以前には高知県東部に本来自生しないノジギクが人為的に植栽されたため、ノジギクとシオギクが交配した雑種が形成されてしまっ



図1 ヒロハミミズバイの花。



図2 ヤッコソウ。



図3 シオギクの花。

たという。雑種にはシオギクに本来ない白い舌状花があるため、両者を見分けることができる。今回の巡検でもシオギク群落の中に白い舌状花をもつものが確認された。シオギクやハマアザミ、ハマナデシコといった植物の花に囲まれた海辺の道を進んでいくと、目の前に岩に張り付いた網目状の根が広がっていた（図4）。亜熱帯性樹木のアコウである。アコウはクワ科イチジク属の常緑樹で、紀伊半島、四国、九州以南の沿岸部に分布する。まとまった群落としては室戸岬にあるアコウは北限に近い。幹の周囲からは気根が這うようにして岩に張り付いていた。それはまるでタコの足のようであった。京都からそれほど離れているわけでない高知にこのような変わった植物が分布していること



図4 岩に張り付いたアコウの根。

に驚きであった。

今回の巡検は普段、私が生活している地域では見ることのできない種類の樹木や草本を見ることができ、興味が尽きない巡検であった。そして、その土地ならではの植物を実際に触れて知ることによって、自分の経験への大きな糧ともなったと思う。

末筆ではありますが、今回の巡検を企画・準備、詳しい案内をして頂いたおかげで参加者一同たいへん有意義で楽しい一日を過ごすことができました。三宅先生には心より感謝申し上げます。

(〒606-8522 京都市左京区下鴨半木町1-5 京都府立大学森林植生学研究室)